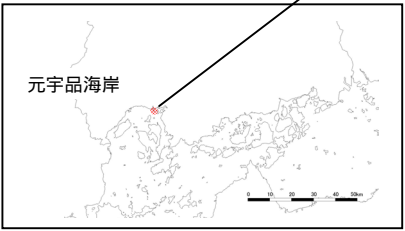



1. 広島市南区元宇品海岸の調査速報（調査日：平成21年10月18日（日））

1.1 調査の概要

調査の場所



元宇品海岸




元宇品海岸
調査範囲

調査の時間

平成21年10月18日（大潮）の干潮時（14:00～16:00）に実施した。
当日の干潮は、潮位が68cm（15時31分）（潮汐表：広島）。

参加メンバー

宮島パークボランティア（3名）、広島環境ネットワーク（2名）
広島工業大学 学生（2名）、広島県内の学校教師（2名）、
広島県（2名）、調査委託会社・日本ミクニヤ株式会社（5名）

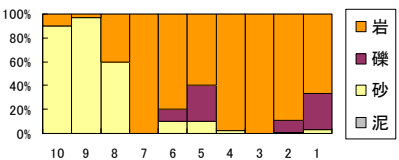


調査前のミーティング

1.2 調査結果について

沿岸域環境モニタリング方法

基質

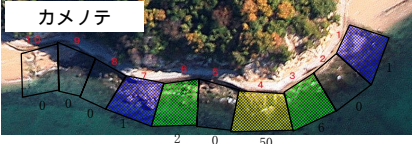


凡例

- 見られない: 「-」海岸線20mあたり0個体
- 非常に少ない: 「rr」海岸線20mあたり1個体
または被覆度1%未満
- 少ない: 「r」海岸線20mあたり2個体以上20個体以下
または被覆度1%以上5%以下
- ふつつ: 「+」海岸線20mあたり21個体以上200個体以下、
または被覆度6%以上30%以下
- 多い: 「++」海岸線20mあたり201個体以上2000個体以下、
または被覆度31%以上50%以下
- 非常に多い: 「+++」海岸線20mあたり2001個体以上、
または被覆度51%以上

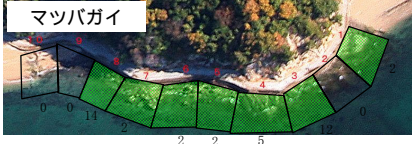
※色枠下の数値は、確認された個体数もしくは被覆度を示す。

カメノテ



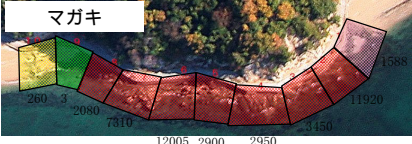
きれいな海域で見られるカメノテは鼻になった区域で非常に少ない～ふつつ、で確認された。

マツバガイ




きれいな海域で見られるマツバガイは区域1,3～8で少ない、で確認された。

マガキ



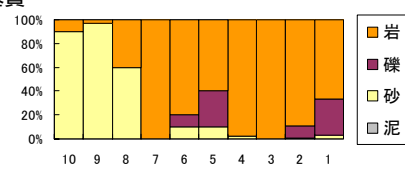
比較的要ごれた海域で見られるマガキは附着基質が少ない区域では少ない、その他では非常に多い、で確認された。

ケガキ



きれいな海域で見られるケガキは、確認されなかった。

基質

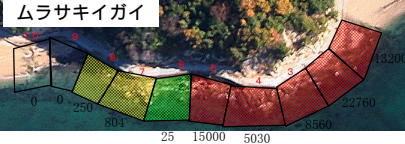


凡例

- 見られない: 「-」海岸線20mあたり0個体
- 非常に少ない: 「rr」海岸線20mあたり1個体
または被覆度1%未満
- 少ない: 「r」海岸線20mあたり2個体以上20個体以下
または被覆度1%以上5%以下
- ふつつ: 「+」海岸線20mあたり21個体以上200個体以下、
または被覆度6%以上30%以下
- 多い: 「++」海岸線20mあたり201個体以上2000個体以下、
または被覆度31%以上50%以下
- 非常に多い: 「+++」海岸線20mあたり2001個体以上、
または被覆度51%以上

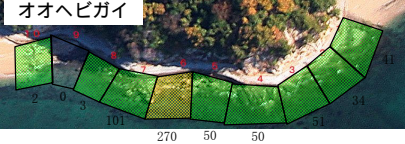
※色枠下の数値は、確認された個体数もしくは被覆度を示す。

ムラサキガイ



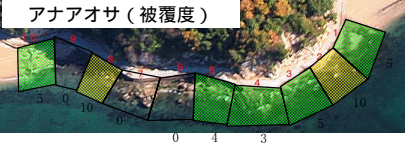
比較的に汚れた海域で見られるムラサキガイは、生息帯に附着基質がない区域9,10では見られないが、それ以外では少ない～非常に多い、で確認された。

オオヘビガイ



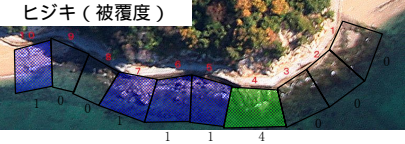
比較的にきれいな海域で見られるオオヘビガイは附着基質がない区域9以外では少ない～ふつつ、で確認された。

アナアオサ（被覆度）



比較的要ごれた海域で見られるアナアオサは少ない～ふつつ、で確認された。

ヒジキ（被覆度）



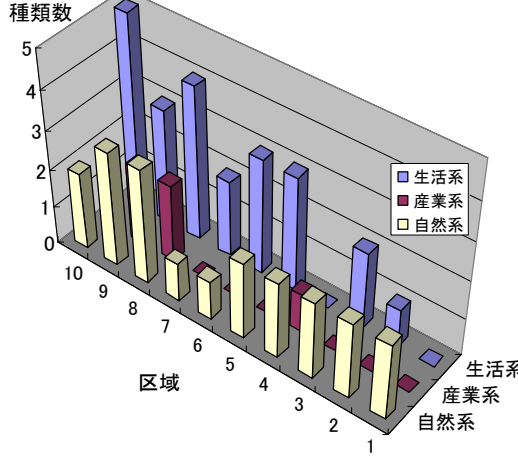
比較的にきれいな海域で見られるヒジキは、潮位が高かったため、非常に少ない～少ない、で確認された。

ゴミ・漂着物

- 生活系ではガラス、プラスチック、ビニール、釣糸が見られた。
- 産業系ではカキ筏のスペーサー、竹が見られた。
- 自然系ではカキ殻、流木、海藻等が見られた。
- 調査範囲におけるゴミの種類数の構成比は、生活系が半数以上を占め、次いで自然系・産業系が多かった。
- 区域10では、生活系のゴミの種類数が最も多い箇所であった。

きれいな海域で見られるオオヘビガイ、カメノテ、マツバガイが見られたが、宮島・大砂利海岸で見られたケガキは、確認されなかった。
比較的に汚れた海域で見られるムラサキガイ、マガキが多く確認された。

種類数



生活系 56%
産業系 22%
自然系 22%

総種類数 18種

景観・植生

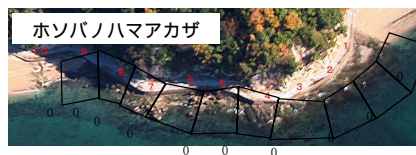
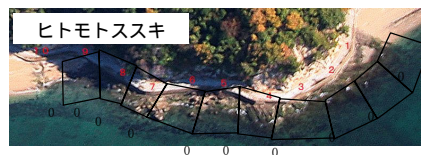
- ・景観・植生では、昨年度実施された3地点の定点撮影を行った。
- ・景観・植生ともに、昨年度との変化は見えていない。



海浜植物

- ・今回対象とした環境指標植物は、元宇品では確認されなかった。
- ・元宇品の海岸線における垂直方向の陸と海との連続性は、護岸により遮断されている。
- ・そのため植物の改変等も見られないため、一般的な種類が多く見られた。

出現頻度	区分の基準
0	:生育なし
1	:1-4株/ブロック
2	:5-9株/ブロック
3	:10-19株/ブロック
4	:20-49株/ブロック
5	:50株以上/ブロック



海岸・干潟生物調査マニュアルに基づく水質判定

指標生物名	得点	元宇品
ケガキ	20	×
アオガイ	19	×
ムラサキインコガイ	18	×
イロロ	17	×
イワヒゲ	16	×
クロフジツボ	15	×
カメノテ	14	×
イシゲ	13	×
マツバガイ	12	×
ウミトラノオ	11	×
ヒジキ	10	×
オオヘビガイ	9	×
イボニシ	8	×
ヒザラガイ	7	×
アナアオサ	6	×
マガキ	5	×
ムラサキイガイ	4	×
シロスジフジツボ	3	×
ツノマタ(褐色)	2	×
タテジマフジツボ	1	×
の数		10
点数の合計		78
平均点		7.8
評価点(平均点×8)		62



引用：「広島県海岸・干潟生物調査マニュアル〔改訂版〕」、平成18年3月、広島県

調査実施後の感想より

- ・カメノテが多く、ムラサキイガイが大きくなっていた。(男性)
- ・市民の活動が引き続きできるようになれば良い。(男性)
- ・自然が残っており、海域がきれいになっている。(男性)
- ・目的をはっきりさせることが重要である。(男性)
- ・山と海がもっと近くなればよいと改めて感じた。(男性)

まとめ

- ・きれいな水域に見られるカメノテ、マツバガイが少ないが確認された。マツバガイは、岩の基質区域で広範囲に確認された。
- ・比較的汚れた海域に見られるマガキや同じく比較的汚れた海域に見られ宮島では見られなかったムラサキイガイが優占していた。
- ・ゴミ漂着物では、カキ筏の部材が多く見られる宮島と比較して生活系の割合がより多かった。海岸での人の活発な活動や河川の流入によるものと思われる。
- ・水質判定では、評価点62点であり、評価(少し汚れた海)であった。
- ・過去の調査にも参加していた男性から「カメノテが多く、ムラサキイガイが大きくなっていた」という海の変化に関する感想があった。